

標準的ながん看護とは何か

[評者] 山田雅子 厚生労働省医政局看護課・健康局総務課がん対策推進室併任

がん看護コアカリキュラム

J. K. Itano, K. N. Taoka 編集

小島操子・佐藤禮子 監訳

日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員 訳

B5判, 816ページ

定価 10500 円(本体 10000 円+税 5%)

医学書院 TEL. 03-3817-5600



■がん医療水準の均てん化に向けて、

看護のチカラの結集を

がんは健康を脅かす代表的な疾患として、多くの国民を苦しめてきた。1981年にがんが死因の第1位になったことをきっかけに、「対がん10か年総合戦略」が、さらにその後「がん克服新10か年戦略」が打ち出され、がんの本体を解明する研究の推進が図られるとともに、早期発見・早期治療に向けた取り組みが進められている。現在は、「第3次対がん10か年総合戦略」として、「がんの予防」と「がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備」を柱とした取り組みが行なわれている。特に「がん医療水準の均てん化」は重要な課題の一つとして取り上げられており、がん医療の地域格差を是正するため、「がん専門医等の育成」「医療機関の役割分担とネットワーク」「がん登録制度」「情報の提供・普及」などの取り組みが推進されている。

がん医療水準の均てん化に向け、がん医療を実践している医療機関を中心とした基盤整備を行なうことはもちろん、がん医療に携わる個々の医療者が力をつけていくことは極めて重要な課題である。患者にとってはどこの医療機関であっても、一定の水準以上の治療を受けたいと考えるのは当然であろう。標準的な治療(手術、抗がん剤治療、放射線治療などの組み合わせや、緩和医療を含む複数診療科間における相互診療支援など)を必要としている患者に対して、必要な情報を伝え、自己決定を支援し、適切な服薬管理や処置を実施する立場にある看護職員には、幅広いがん医療の最新の知識に裏付けられた質の高い看護を提供する

ことのできる技術が必要である。

■日本版がん看護コアカリキュラム作成への期待

では、標準的ながん看護とは何か。本書は米国で Oncology Nursing Society が2005年に出版したテキストであり、すべてのがん看護に携わる看護職が知っておくべきこと、そして実践する力を備えておくべき技術が網羅されており、がん医療の均てん化を進めていくためには貴重な役割を果たす1冊となると考えられる。また、翻訳協力者が110名にも上り、日本がん看護学会が会員の力を結集した力作である。

本書の特徴は、がん看護を幅広く、いくつもの切り口から解説している点である。発生メカニズムから治療の原則、予防に関する根拠にもとづいた知識、消化・循環・呼吸機能などにおける変化、根拠にもとづく治療に関する知識、QOLを支援するための多角的な視点と看護技術などなど、いずれも簡潔に整理されている。ぜひ看護診断の知識をもって読み解いていただきたい。

注意すべきは、本書があくまでも米国でのテキストであること、そしてがん医療は日進月歩であるという点である。近い将来、日本の治療環境におけるがん看護のための標準テキストが、日本語で編纂されることを期待している。2007年4月に施行されるがん対策基本法では、「医師等の責務」とし「がん患者の置かれている状況を深く認識し、良質かつ適切ながん医療を行なうよう努めなければならない」とされた。「良質」「適切」とした言葉にこだわりをもって、自己研鑽に励んでいかなければならない。